

= 海外研修通信 = I'm possible

令和5年 3月15日(水)

第 1 号 ①

室蘭清水丘高校

令和4年度の海外研修は、2023年2月5日(日)~2月11日(土)の5泊7日でアメリカ合衆国ワシントン州シアトル市を訪問しました。観光旅行では行けない場所、会えない人たちを訪れる、お金では買えない“世界の一流に触れる”旅です。

2月5日(日) «シアトルへ!»

朝10:30新千歳空港で保護者の方々と深澤校長に見送られて羽田空港に向かいました。海外研修の始まりです。『羽田空港で周りに外国人しかいないことに気づいた時に初めて海外に行くんだという実感が沸いた。Sena』。『長時間のフライト、機内食、映画のような景色、英語しか聞こえない館内アナウンス。全てのことが初めてでずっとワクワクしてました。Rina』。シアトル到着後、緊張の入国審査。怪しいと判断されると“別室へ”連れていかれます。『人生初めての入国審査でドキドキした。Honoa』。『入国審査の時、ちゃんと準備していたが、焦りすぎて言葉にしないで持っていた紙を渡してしまった。Harune』。シアトルの空港を出て、初日は観光に出かけました。初めに訪れたのが、日本人入植者が広めたとされるパイププレイスマーケット。スタバの1号店も同じエリアに!『シアトルの街並み、食事、雰囲気など、日本では絶対に味わえないことばかりだった。Takeru』。『観光するのにバスに財布を置いてくるなど、ボーッとしていた。Soma』。

夕方、ホストファミリーと対面し、それぞれの家庭へと向かいました。『ホストファミリーと対面した時には、ワクワクと緊張で心が落ち着かなかったです。自分から積極的に声をかけて早く打ち解けられたので、1日目からすごく楽しい日となりました。Konori』。『ホストファミリーがみんなやさしくて良かった! Masahiro』。『ポップコーンを作ったり趣味の話をしているうちに楽しくなりました。Nobuki』。

ホームステイは一人一家庭。これから毎日**オールイングリッシュ**です。



2月6日(月) «ボーイング社訪問»

研修2日目。まずボーイングの博物館の見学をしました。『自分が普段乗っている飛行機の組立てを間近で見る事ができてとても興奮しました。Rina』。『一番楽しみにしていたBoeing!!まだ日本には導入されていない飛行機を見ることができてとても嬉しかったです。Nobuki』。ランチをはさんで午後はゲストスピーカーとして“**不可能を可能にした男**”前田さんに講演してもらいました。

前田さんは十勝出身でパイロットにあこがれ上京したが、バイク事故で右目を失明。日本ではパイロットにはなれないため、せめて航空産業にはかかわりたいということで同産業が盛んなアメリカへ留学。そこで出会った教授からの助言で、アメリカでは片目でもパイロットになれることを知り、夢を実現させた。現在もアメリカの空を飛んでいます。『前田さんの話を聞いて、出来ないと思ったとしてもまず挑戦してみること、日本でダメなら海外も視野に入れて簡単にあきらめないことが大切と分かった。Tsugumi』。『視野が広がり、将来の夢に向かって諦めずに努力し続けることが大事だと強く感じ、今後自分が何をすべきか明確に分かりました。また、自分の可能性を信じさせてくれるように前向きな気持ちや勇気を与えてもらいました。Konori』。『Mr.Maeda's speech was amazing. Thanks to him, I got interested in my future. Sena』。『**“今までの常識を疑え!”**という言葉に心を動かされた。Takeru』。

2月7日(火) «Redmond HS 高校訪問»

シアトルのあるワシントン州は、全米でも教育水準が高い州で、レドモンド高校は其中でも優秀な進学校の一つです。生徒の多くは“自分の車”で登校します。1時間目が7時30分開始です。(シアトルの朝は早い)。今回は3時間目~7時間目までお世話になりました。日本語クラスの生徒に対して、日本の文化や清水丘高校、北海道のことに於けるプレゼンをしたり、折り紙を教えてあげたり等の交流をしました。日本語クラスといっても、“ほぼ”日本語初心者のクラスもいくつかあり、ほぼ英語で交流をしました。レドモンドの生徒は反応(ノリ)がよく、それに対して清水丘の生徒もよく反応する。日本の授業にはない良い風景でした。『最初は緊張してましたが、簡単な英語である程度会話ができたので楽しくなっていました。Nobuki』。『学校で練習したプレゼンや折り紙など色々なことがうまくできた。Harune』。

ランチの時間は、レドモンド高校の先生の計らいで、清水丘の生徒一人とレドモンドの生徒一人がペアになって一緒にランチを取るようになってくれました。『ランチと一緒に食べた生徒と仲良くなって、今でもメッセージのやりとりができて嬉しい。Rina』。『初めて日本人以外の友達ができ、今もインスタで会話をして英語や学校の事を教えてくれるので、頑張って話しかけて良かったなと思いました。Honoa』。『今でもやり取りを続ける友達ができよかった。Soma』。



= 海外研修通信 = I'm possible

令和 5 年 3 月 1 6 日 (木)

第 1 号 ②

室蘭清水丘高校

2 月 8 日 (水) «デジペン工科大学訪問 マイクロソフト社訪問»

【午前】デジペン工科大学 (Digi Pen)

デジタルアート・ミュージック、コンピューターサイエンス・ゲーム制作等を学ぶデジペン工科大学。日本ではあまり知られていない大学ですが、その道を目指す人たちには有名な大学だそうです。卒業後の進路はマイクロソフト、任天堂、アマゾン等シアトルにある世界の大企業だったり映画製作会社に就いたりしているようです。英語を学ぶのと同時にアニメ・ゲーム関係に興味のある人にはいいかもしれません。『I'm really interested in arts, games and animations. So I was instantly fascinated with Digi Pen. Sena』。『アメリカの大学も考えようと思った。Masahiro』。『デジペンでは、多くのゲーム製作に携わっていて、たくさんの賞などが飾られていたので、ゲーム会社のような感じでした。Nobuki』。

【午後】“世界の”マイクロソフト



本社に行く前に“社員と関係者しか入れないレストラン”でランチタイム。食べ物やスタバは有料だけど、コーラをはじめジュース類は無料で飲み放題でした。マイクロソフト社では、担当の方の案内により展示されている実物を見ながらマイクロソフトの歴史なども学びました。その後、ゲストスピーカーとして3名の日本人従業員の方に講演をしてもらいました。世界を代表するような一流企業で働く“日本人”の方々に直接出会えて話を聞いたこと、講演の内容も濃いもので

凄く刺激になったと思います。講演の後の質問コーナーでは、帰りのバス時間のため途中で終わってしまうほど積極的に質問していました。生徒の積極性を感じて3名の方は「この子たちの2年後がどうなっているかがすごく楽しみ!」と言っていました。『講演を聞き、自分の得意とするものは武器になるのでどんどん勉強するといいいと分かった。Tsugumi』。『海外の一流企業で働く人たちは、みんな行動力がものすごいと思った。Soma』。『日本にいる時のこと、海外の生活ことや生活の違いまで教えてくれて、進路を考える参考になった。Honoa』。『3人の話を聞いて将来の参考になり、視野も広がりとても充実した時間でした。Harune』。『日本で留まるのではなく、もっと視野を広げてみることでいろんな事に気付けるということを教わりました。Konori』。『買い物の時、カードが使えないトラブルにあったが、店員さんと会話できるくらいになった。Takeru』。

2 月 9 日 (木) «ワシントン大学(UW)訪問 航空博物館訪問»

【午前】ワシントン大学(UW)

ノーベル賞受賞者も数多く輩出している西の名門大学。ワシントン大学の学生の案内で、まるでハリーポッターの世界にいるような図書館をはじめ、広大なキャンパスを見学しました。『ワシントン大学は全てが博物館みたいで、とてもキレイで日本じゃ考えられない風景だった。Takeru』。『図書館が広い上に、歩いたり呼吸をすることでさえも緊張するほど静かでした。Rina』。『私とは比べ物にならないくらい集中して勉強していて見習おうと思った。Honoa』。『ハリーポッターで見たような大学で、校内に池があるなどとても広かったです。200 年前に開校した当時の校舎が残っている一方、最新の建物があったりと、すばらしい大学でした。Nobuki』。

【午後】航空博物館 The museum of Flight

ボーイングのあるシアトルにはいくつかの航空関係の博物館があります。今回訪れたのは、その中の一つです。広い館内には、数多くの航空機（かつて使用されていた飛行機から、宇宙へ飛び出したアポロまで）展示されていました。屋外の広い敷地の中には、アメリカ大統領の専用機である“エアフォース・ワン”やコンコルドなども展示されていました。学生用の STEM ツアーに参加し、パイロットが行う運航前点検や、フライト・シュミレーターでパイロット体験もしました。『航空博物館は色々なシュミレーションや体験があって、飛行機に興味がない人も楽しませるという工夫を感じた。Soma』。『たくさんの航空機があり、ここでプログラムを体験することができ楽しかったです。戦闘機や航空史の初期を代表する飛行機もあり、時代を感じました。Konori』。『音速を超えた飛行機“コンコルド”を見ることができて満足しました。Nobuki』。



2 月 1 0 日 (金) «最終日»

あっという間に帰国の日になりました。飛行機の時間があるので、いつもよりも早い集合時間。それぞれのホストファミリーに集合場所まで連れて来てもらい、そこでお別れをしました。

『My host family gave my family some presents. They are very kind and considerate. Sena』。『とても短く感じた。だけど本当に行けて良かったと思った。Masahiro』。『少しの間だったけど、本物の家族のように接してくれていたのが寂しかった。Honoa』。『アメリカが楽しすぎて帰るのがもったいなかったです。Rina』。『一言では表せないほど楽しかった。ホストファミリーとの別れは寂しかったけど、前日に手紙を書き、渡せたので良かった。Konori』

羽田の到着が予定より約一時間遅れになって、新千歳までの乗り継ぎが若干不安でしたが、最後まで全員病気もケガもなく無事到着しました。飛行機好きの彼は、機内でこんなことをしていました。『デルタ航空の CA さんに飛行機が大好きと言ったら、マグカップ、ボールペン、バッチ、ハンドクリームなどなどたくさんのグッズをもらうことができて幸せの気分でした。ANA でも同じように言ってみたら、ハガキ、あめ、搭乗証明書、マスクなどもらうことができました。積極的な行動が一番だと感じました! Nobuki』。この研修で学んだことを実践しましたね。

«海外研修参加生徒の感想»（研修後の反省・感想文からほんの一部を抜粋したものです）

- ☆ 私が海外研修に応募した理由は「英語力を高めること」、「研修で得た経験を将来の職業に活かしたい」と思ったからです。事前研修ではプレゼンや折り紙など、相手に楽しんでもらえるような仕上がりになったので良かったです。ホームステイで、ホストファミリーと会うまで不安でした。実際に会ってみるととてもやさしく接してくれて、凄く親切な方々に恵まれました。家ではカードゲームをしたりご飯を一緒に作ったりしました。ホストファザーの学校に行って授業を教えてもらったり部活を見学したり、たくさんの思い出ができました。英語を怖がらずに使って会話をするのができたのはホストファミリーのおかげだと思います。英語を身に着けるには毎日少しでも英語に触れることが大事だと思います。この経験を活かして将来に役立てたいと思います。Konori
- ☆ 研修先で一番楽しかったのはボーイングです！まだ日本では見れない「777X」という最新機を見れたからです。テンション爆上がりでした。Redmond の生徒とはインスタを交換し、連絡を取り合っています。アメリカの友達ができて嬉しい！今後は自分の夢を今以上に全力で取り組み、何かを否定されても自分で挑戦してみたいです。また、チャンスを無駄にしないようにしたいと思いました。今回の研修では、たくさんの方々に本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。Nobuki
- ☆ レドモンド高校では、積極的であることがとても大事だということに気づきました。日本人のように察するということがあまりないので、自分の意見をはっきり言わなければならないというのが難しかったです。人見知りをしていると誰にも相手をしてもらえないので、もっとopen-mindedにならないといけないと思いました。前田さんの講演では、自分の将来の考え方が変わりました。1年前に知っていたらもっと違う進路選択をしたかもしれないと悔しくなりました。今目指している大学はとても自由なところなので、合格したら、やりたいという気持ちに忠実に学習していこうと思いました。Sena
- ☆ 今回印象に残ったことは3つあります。1つ目は研修に参加するきっかけになったマクロソフトです。実際に本社を見ることにより、さらに興味を持つことができました。2つ目は前田さんの講演です。絶望に立たされても自分の努力次第ではどうにかなるんだなということを教えてもらい、とても勇気を貰えました。3つ目はホームステイです。言葉が通じなくてもジェスチャーしたり、ゲームなどで喜びあったりすることがコミュニケーションとなり、とても支えられた5日間でした。この研修では言葉では表しきれないほど多くの経験をしました。将来の夢についての幅も広がり本当に良い研修となりました。Masahiro
- ☆ 最初は日常会話や会計すら手こずったが、慣れとは恐ろしいもので、日を重ねるごとにこちらから話しかける余裕や、店員さんとの世間話しにもついていけるようになり、自分の英語力の伸びを肌で感じる事ができた。一週間ではべらべらに話せるようになるには難しい期間だったが、長期間ホームステイし高校に通い続ける留学とはまた違った体験ができたと思う。パイロットの前田さんや海外で働く日本人と話す、一流企業を見学するといった経験はとても貴重なものであり、若いうちに経験できたことを本当にありがたく思う。Soma

- ☆ 今回の研修で心に残ったことは3つあります。1つ目は前田さんのお話です。視野を広げて、もっとやりたいことにも挑戦していき、自分から行動して努力してみようと思いました。2つ目はRedmond HSの訪問です。うまく言葉が伝わらないこともあったけれど、ジェスチャーや表情で伝わることも多くて、言葉以外にも大切なことがあると思いました。お昼もペアの子だけではなく女子8人くらいいて学校の話しを聞けて楽しかったです。3つ目はホストファミリーと過ごした時間です。外食や買い物に行ったり、車の中や寝る前に、1時間ほどその日の出来事の話しをしました。最終日には「初日より英語が上手になっているね」と褒められて嬉しかったです。今回の研修は、私の将来の選択肢を増やしてくれるとても良いきっかけになりました。Honoa
- ☆ 私はホームステイを一番楽しみにしていた半面不安も少しあったのですが、ホストファミリーがとても親切で、会ったその日から不安はなくなりました。スタバやスーパー、映画館に連れてってもらったり、一緒に天ぷらも作りました。毎日30分以上、長い時は2時間くらい会話ができました。このホストファミリーと出会えて本当に良かったです。また、この研修では、海外で活躍する日本の方の話聞いて、やりたいと思うなら挑戦すべきだと思います。私は夢が2つあって、それになるためにはどうしたら良いかを考えて、それに向けて勉強しようと思いました。Tsumumi
- ☆ 私は、ずっと海外に行ってみたくて良い経験になると思い、親と相談して参加しました。初めは言葉やホストファミリーのこととか心配なことがたくさんありましたが、一回日本を出たら、戻れないし、なんとかかなると思い続けていました。海外研修に参加して、言葉が通じなければ身振り手振りで一生懸命伝えようとしたら、案外伝わるのだと思いました。笑顔も大切でした。日本とは違う文化を実際に体験して、色々な学びがありました。とても楽しかったし、学びの多い充実した一週間でした。Harune
- ☆ 初めての渡米ということもあり、見るもの、聞こえてくるもの、触れるもの、規模感など全てが驚きの連続でした。前田さんの講話では、自分の人生にある可能性の見つけ方を知れました。楽しみにしていたホストファミリーとの交流では、ゲームを一緒にやったり、その日の出来事を話すと真剣に聞いてくれたりと、本当に充実した毎日を過ごすことができました。この海外研修では、沢山の人にお世話になりました。これだけ貴重な経験をさせてもらったことに感謝して、自分の視野を広げながら生活したり、英語をもっと勉強して普通の会話を楽しめるようになりたいと思います。Rina
- ☆ アメリカは食事を除けば日本よりも過ごしやすい場所でした。アメリカに来なければ味わえないことがたくさんあり、本当に行けて良かった。ホストファミリーは優しい人で、食事中もその日に行った場所や体験したことなどたくさん話し、自分のもどかしい英語も聞き取ってくれて会話を続けることができました。このタイミングで自分の英語の未熟さに気づけて本当に良かったです。最初は海外研修に参加するかどうか迷っていたけど、いろんな人の話を聞けたり、多くの経験ができ、日本では味わえないことばかりで後悔することはありませんでした。この経験を活かして、これからの学校生活、将来に役立てていきます。本当にこの研修に行けたことに感謝しています。Takeru